

# 地震調査研究推進本部政策委員会第5回広報検討部会 議事要旨

1. 日時 令和5年8月8日（火） 15時00分 ～ 17時00分
2. 場所 WEB会議
3. 議題
  - (1) 地震本部の今後の広報活動について
  - (2) その他
4. 配布資料
  - 資料 広5-(1) 地震調査研究推進本部政策委員会広報検討部会構成員
  - 資料 広5-(2) 地震調査研究推進本部関連の主な動き
  - 資料 広5-(3) ぼうさいこくたい2023への参加について
  - 資料 広5-(4) 地震本部地域講演会の実施について
  
  - 参考 広5-(1) 火山調査研究推進本部の設置について
  - 参考 広5-(2) 地震本部パンフレット 「活断層の地震に備えるー陸域の浅い地震ー」
  - 参考 広5-(3) 地震本部広報紙「地震本部ニュース 令和5年夏号」
  - 参考 広5-(4) 地震調査研究推進本部政策委員会第4回広報検討部会議事要旨
  - 参考 広5-(5) 地震調査研究の推進についてー地震に関する観測、測量、調査及び研究の推進についての総合的かつ基本的な施策（第3期）ー
  - 参考 広5-(6) 地震調査研究推進本部の成果の効果的な普及方策について
5. 出席者
  - (部会長)
  - 中埜 良昭 国立大学法人東京大学生産技術研究所教授
  - (委員)
  - 朝田 将 内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（調査・企画担当）  
（川畑 亮二 内閣府政策統括官（防災担当）付参事官補佐（調査・企画） 代理）
  - 遠藤 英二 兵庫県防災監兼危機管理部長  
（稲見 俊 兵庫県危機管理部総務課 企画班長 代理）
  - 加藤 孝志 気象庁地震火山部管理課長
  - 神田 克久 株式会社小堀鐸二研究所プリンシパルリサーチャー
  - 高坂 哲也 横浜市危機管理監
  - 田中 淳 国立大学法人東京大学大学院情報学環特任教授
  - 中川 和之 株式会社時事通信社解説委員
  - 笹野 健 消防庁国民保護・防災部防災課長  
（櫻井志男 消防庁国民保護・防災部防災課震 災対策専門官 代理）
  - 平田 直 国立大学法人東京大学名誉教授
  - 若松 洋之 損害保険料率算出機構火災・地震・傷害保険部長  
（事務局）
  - 郷家 康德 文部科学省研究開発局地震・防災研究課長

重野 伸昭 文部科学省研究開発局地震・防災研究課地震調査管理官  
佐藤 壮紀 文部科学省研究開発局地震・防災研究課地震調査研究企画官  
大榎 直樹 文部科学省研究開発局地震・防災研究課課長補佐  
加藤 尚之 文部科学省科学官  
八木 原寛 文部科学省学術調査官

## 6. 議事概要

### 議題 (1) 地震本部の今後の広報活動について

事務局（大榎）：「資料 広5-(2)」「参考 広5-(1)」「資料 広5-(3)」に基づき説明。主なコメントは以下の通り。

【中川委員】 2023年のぼうさいこくたいでは400近くの出展があり、多くの方に横浜に来ていただく見込み。東京の火災だけでなく、神奈川にも津波や土砂災害、家屋倒壊など、多くの被害が発生したことや、それをきっかけに調査研究が始まったことについて話せればと思う。広報が重要であるという話に繋がればと考えている。

【平田委員】 地震調査委員長としてこのセッションに参加する。中川さんがお話ししたように、今年は関東地震から100年という節目である。地震本部としては、これまでの活動や成果を広く伝える必要があると考えている。地震本部の役割や課題について、できるだけ詳しく説明したいと思う。

事務局（大榎）：「資料 広5-(4)」に基づき説明。主なコメントは以下の通り。

【加藤委員】 今回の地域講演会について、横浜については横浜地方気象台、八戸においては青森地方気象台が協力することで話を進めているところ。気象庁としても、地域防災力の向上に貢献したいと考えている。現在、各地域での防災対応に関する取組を行っている。その中で、気象庁が目指していることと、今回の取組において目指す観点は非常に合致しており、うまく連携できていると思う。今回は、横浜市と八戸市で講演会を行うが、来年度以降も様々な機会を検討していると聞いている。各地域で地震本部の活動を広く知らせることも含めて、積極的に協力していきたいと思う。

【中埜部会長】 継続的に行うことが重要。様々な場所で定期的に広報活動を行えるようにしたい。そのためには、無理をしないことも大切である。現実的で持続可能な活動の方法を、ぜひ検討してほしい。長く続けて浸透させることも非常に重要であると思う。

【中川委員】 横浜地方気象台は素晴らしい場所にある。今年に関東地震から100年ということで、そこを利用するという話になった。我々地元としても、一度だけでなく、横浜地台で様々な形で活動すると楽しいと考えている。実は、全国の地方気象台には、歴史ある建物も多い。そういう形で活用できると面白いと思う。また、地方気象台だけでなく、大学の研究所も古い建物で良い場所にあることが多い。防災を行ってきたところであることを市民に伝えるのも良いと思う。ぜひ、よろしく願いたい。

【高坂委員】 横浜市は横浜市地方気象台と協力して、情報交換を行っている。また、関東大震災と

ということで、今年の9月には横浜の赤レンガ倉庫で防災フェアを開催する予定である。関係する機関と調整をしながら、防災に関する様々な取り組みを進めていきたいと考えている。

【平田委員】 地方気象台と連携することは、非常に重要であると思うし、期待している。地域講演会という趣旨から考えると、地震調査委員会の委員は、北海道から沖縄まで、広い範囲から参画いただいている。調査委員会は月に1回の定例会を行った後に記者会見をしているが、例えばその地域で委員の先生が地元の人に話す、といったことを検討しても良いかもしれない。地震本部として、調査委員会の先生には頑張ってもらいたい。

【田中委員】 顔の見える関係や、地域での認知度というのはとても大切である。もう一点は、地域講演会というのは、様々な省庁や組織や自治体が行っているのだが、それぞれが講師に講演内容を自由に任せている形である。せっかく地震本部が主催するのだから、各地方の評価を基に、地震の活動状況やリスクについて伝えるような、標準的な講演会の形、資料を作ることが必要であると思う。

【中川委員】 地震本部がとりまとめている「日本の地震活動」は、日本全国の地震の状況を見ることができるとともに、地域ごとの地震の特徴やリスクを理解することができる。横浜で行うときも、横浜や南関東の地震の特徴を考える資料があると便利だと思う。それをもとに話をすると、地元の学校や自治体の方にも使ってもらえるかもしれない。

【神田委員】 大多数の人は、自分の住む地域でどんな地震が起こり、実際にその建物のあるところでどれくらい揺れるかということ案外知らない。その辺の広報活動がもっと充実しているといいと思うことが多い。ハザードマップなどいろいろ出ているが、自分の身になって考えるような、それぞれの地域での情報をもっと分かりやすく伝えるようなものがあればいい。

【平田委員】 全国地震動予測地図では、ある県やある町というところの局所的な場所でも、地図を拡大すれば全国どこでもその地域の情報が見える。だから、新しく作るというよりは、今、地震本部が公表している、長期評価や全国地震度予測地図からローカルな部分を抜き出して整理するだけでも重要な情報を得ることができる。もちろん、それでは不十分なところはあると思うが、素材はある程度そろっている。

【中埜部会長】 関連機関とも連携しつつ、地域向けに長続きするような活動としても実施できるような工夫ができればと思っている。委員の先生方もご協力いただきたい。

## 議題 (2) その他

事務局 (大榎) : 「参考 広5-(2)」「参考 広5-(3)」に基づき説明。主なコメントは以下の通り。

【中埜部会長】 地震本部ニュースはどのように配布しているのか。

【大榎 (事務局)】 現在は紙媒体で配布しておらず、電子媒体のみ、ホームページで公表している。また、発刊されたときに連絡してほしいという方に250名程度登録していただいております、更新の際にメールで連絡している。今後は必要に応じて印刷して、イベント等で配るような形もできればと考えている。

【中埜部会長】 もう少し発刊を積極的にお知らせしても良いと思う。また、電子配信であれば、QRコード等を用いてコンテンツにアクセスできるようにするなど、工夫があっても良い。

【田中委員】 動画も良いコンテンツである。ホームページ等に載っている動画コンテンツは、短くなければ見てもらえないし、再利用されない。短いクリップを多数用意し、フリー素材として提供するという方法がいいのではないかと思う。私も地域で講演会をするとき、地震本部の資料を見ることがあるが、そんな時に、専門家の短いクリップのようなものがあれば便利だと思う。もう一つは、パンフレットについて。専門家が読むと当たり前のような記述でも、そうではない人から見るとまだわかりにくい記載がある。そういった視点を持って、今後ブラッシュアップしていただきたい。

【中埜部会長】 知っている人が見てもなかなか気がつかないところを、フレッシュな目で見てみると、改めて見直す必要がある点が出てくるというのはよくある話。そのような視点も忘れずに広報できると良い。広報というのは難しい面もいっぱいあり、どうすれば正解かという話もないかもしれないが、いかに皆さんにキャッチーにアピールできるか、正しい情報をうまく伝えることができるか、などいろいろな角度から検討しなければいけない。いろいろとアイデアを出しながら、皆さんにアピールができるビジュアルなものにしていくということを考えたい。

【事務局（大榎）】 次回以降の日程については、部会長と相談して改めて連絡する。

【中埜部会長】 それでは第5回広報検討部会を閉会する。